

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 日米協ギ (委)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米協議委員会, 対沖縄援助 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43713

(5)

中

四

12

昭

39

12

14

(5)

○

○

○

○

○

○

総務長官発言

昭和39年12月11日

本日は、ワットソン高等弁務官及びマーチン政治顧問の列席を得ましたことを心からお喜び申し上げます。

このたび、1965（昭和40）日本会計年度における日本政府よりの沖縄援助額案について、米国側の提案分及びこれに追加した日本側の提案分の総べてが、沖縄における経済の発展及び住民の安寧福祉の向上に役立つものとして、この協議委員会において、日米の完全な合意に達したことを心から喜ぶものであります。

今回の日米の合意については、これまでの日米協議委員会及び日米琉技術委員会が極めて円滑に行われたことが特に印象的でありまして、今後もこの日米協調の精神がこの協議委員会においてのみならず広く沖縄に関する諸問題について生かされることを期待するものであります。

ライシャワ大使及び本日特別に御列席を得

たワットソン高等弁務官に対して深甚な謝意を表する次第であります。

大臣 〇
 事務次官 〇
 審議官
 官房長
 官房総務参事官
 大臣秘書官
 アメリカ局長 〇
 参事官 〇
 北米課長 〇

〇 〇 〇 〇

天4回協議委員会
 開催の件
 39.12.11
 米、此

沖縄援助に關する天4回協議委員
 会は 12月14日 (月曜) 午後5時
 より 外務大臣接見室において開催
 ことに決定した。

議題は来年度の日本の対沖縄援助予
 算を協議することであるが、来年度の
 我が国の^案援助予算は同協議委員会において
 最終的に決定をみる予定。
 (日本側提案あり)

本件協議委員会に、中/佐丸
 ワトソン 高等参事官、マーティン 政
 治顧問が出席した。
 なお、本件協議委員会開催に
 して 情文局を通じて ~~機密~~ 在米大
 使館協議の上 12月11日午後5時
 特達局において 新聞発表を行った。

アメリカ局長 出

参事官

北米課長 出

X

沖縄援助に因り第4回協計
委員会に付

(昭和39.12.12.)
*北

第4回協計委員会は12月14日(月)午後5
時より本省大臣接見室に於いて開催され、本会計年

度の日本政府対沖縄援助計画に因り、日本(以下)提供
とありの額に~~は~~日本国内合意額予定に~~は~~加り、同

委員会

1 計画日程(案) (英知両文)

2 出席者名目 (英知両文)

3 座席配置表 (英知両文)

4 権名計長用紙

7 別添の(下)と致す

付下: 白井長官発言案 RC 新聞発表案

12 12日午前中に特急向り手交致す予定

特連(公理社記者団)発表

第4回日米協議委員会についての新聞発表

昭和39年12月14日

12月14日午後5時より外務省大臣接見室において、日本政府の琉球諸島に対する経済及び技術援助に関する第4回日米協議委員会が開かれた。

会議は、去る12月3日より5日までの間那覇市米民政府会議室において行なわれた第3回技術委員会の検討の結果、技術委員会の議長より提出された1965(昭和40)日本会計年度における日本政府の沖縄援助の計画一覧表について協議した後、これに合意し、午後5時40分終了した。

会議の出席者は次のとおりであるが、今回は特にワットソン高等弁務官及びマーチン高等弁務官政治顧問がオブザーバーとして出席した。

日本側

権 名 悦三郎	外 務 大 臣
白 井 荘 一	総理府総務長官
竹 内 春 海	外務省アメリカ局長
山 野 幸 吉	総理府特別地域連絡局長
中 島 信 之	外務省アメリカ局北米課長
薄 津 芳	総理府特別地域連絡局第一課長
北 条 賢 夫	那覇日本政府南方連絡事務所次長

米 側

エドウィン・O・ライシャワー	駐日米国大使
アルバート・ワットソン中 将	琉球諸島高等弁務官
ジェームス・V・マーチン	高等弁務官政治顧問
ローレンス・O・ヴァス	米国大使館公使
ジェイ・オーエン・ザヘレン	米国大使館参事官
ウィリアム・H・フランス	米国大使館一等書記官
ロバート・M・ルーニツ	米国大使館三等書記官

なお、今回の日米協議委員会において^{合意}した1965(昭和40)日本会計年度における日本政府の沖縄援助の計画一覧表の内容は別表のとおりである。

(別表)

総額 2,865,630^{F¹⁰} (7,960^{F¹⁰})

1. 農業及び漁業 805,162^{F¹⁰} (2,236^{F¹⁰})

(農業研究調査、農業普及、模範農場、種畜生産研究、
家畜改良増殖、渠港施設、渠堰施設、農林養蠶中央貯蓄
土地改良、鮮魚運搬船、模範水産増殖、農山漁村電氣
農業教育近代化施設)

2. 公共事業 887,700^{F¹⁰} (2,466^{F¹⁰})

(森林用普及、治山、治水、護岸、直路橋梁、埠頭、港
都市用平、市営住宅、航路標識、気象台施設、気象台消耗品
土地調査)

3. 社会福祉 520,135^{F¹⁰} (1,445^{F¹⁰})

(産婦保護箱、医療施設、医療備品及び消耗品、
結核患者等入院施設、A-C、B病対策、児童福祉施設、
社会福祉貸付金、母子福祉貸付金、消防施設、
無医地已診療所備品、身体障害者施設整備、精神衛生事業、
生活保護事業)

4. 教育、文化 500,401^{F¹⁰} (1,112^{F¹⁰})

(公民館圖書、養護学校、学校用備品、
幼稚園備品、学用品無償貸与、教科書無償貸与、
学校図書館圖書、琉球大学図書館圖書、奨学資金、遺児育英資金、
全日作育大会参加、青年の家)

総 理 府

5. 技術援助 252,232^{F¹⁰} (707^{F¹⁰})

(医師及び歯科医師派遣、農業指導員派遣、本土研修、
国費奨学生計画、教育文化研修、教育指導、技術援助、
先立TV置局調査)

総 理 府

Total sum: ¥2,865,630 (\$7,960)
(Unit: Thousand Yen; Thousand Dollars)

Category No.1. Agriculture and Fisheries

¥805,162 (\$2,236)

Agricultural Research, Agricultural Extension, Model Farm,
Livestock Breeding and Research, Livestock Improvement,
Fishing Port Facilities, Fish Nests, Funds for Agriculture,
Forestry and Fisheries, Agricultural Land Development,
Refrigerated Fish Carrier, Model Fishery Center, Rural
Electrification, Facilities for Improving Agricultural
Education.

特
別
表
英
文
訳

Category No.2. Public Works

¥887,700 (\$2,466)

Forestry Development, Flood Control, Retaining
Walls, Roads and Bridges, Piers and Harbors, Urban
Development, Municipal Housing, Navigational Aids,
Weather Station Facilities, Weather Station Supplies,
Land and Boundary Survey.

Category No.3. Social Welfare

¥520,135 (\$1,445)

Family Register Cabinets, Medical Facilities,
Medical Equipment and Supplies, Hospitalization
of TB and Other Patients, Treatment of Hansen's
Disease, Child Welfare Facilities, Funds for Welfare
Institutions, Welfare Loans, Firefighting Facilities,
Medical Equipment for Doctorless Areas, Improvement
of Facilities for the Handicapped, Mental Hygiene
Program, Daily Life Security Program.

Category No.4. Education & Culture

¥400,401 (\$1,112)

Books for Community Centers, School for Handicapped
Children, School Equipment, Kindergarten Equipment,
School Supplies, Free Textbook Program, School
Library Books, Books for University of Ryukyus,
Scholarship Loans, Assistance to Bereaved Students,
Sports team to Japan, Home for Youths.

Category No.5. Technical Assistance

¥252,232 (\$701)

Doctors and Dentists from Japan, Agricultural
Leaders to Japan, National Scholarship Program,
Educational and Cultural Training, Educational
Guidance, Technical Assistance, Survey for
Establishment of TV Station.

極 秘
秘

第4回協議委員会
議長用メモ

昭和39/2/4
アメリカ局北米課

(着席)

(報道関係者は、あらかじめ所定の位置に
入場、写真撮影の後退場)

/(開会)

椎名大臣 只今より、日本政府の沖縄援助に
関する第4回協議委員会を開催いたします。

ここで、ライシ+ワー大使から発言を求
められております。大使どうぞ。

(通訳)

(ライシ+ワー大使より、ワトソン高等弁
務官及びマーティン公使を紹介)

私は、ここで、本日ワトソン高等弁務官
及びマーティン公使がオブザーヴァーとし
て本委員会に出席されたことに対し、日本

側委員を代表して、心から歓迎の意を表し
ます。

お手許にお配りした議事日程案に御異議
ありませんか。

御異議なければ、これにて議事を進めま
す。

(通訳)

只今採択された議事日程にありますとお
り、本日の委員会は、去る/2月3日から
5日まで開催された技術委員会における検
討の結果、同委員会議長より提出された来
年度の日本政府の対沖縄援助に関する計画
一覧表を討議することが目的であります。

ここで、ライシ+ワー大使に御発言願
います。

(通訳)

2. (ライシャワー大使発言)

(米側は、さきに提出された日本側提案に同意し、それを技術委員会に回付した次第なる旨述べる。)

3. (日本側発言)

椎名大臣 ありがとうございます。

技術委員会での検討の結果、来会計年度の日本政府対沖縄援助計画一覧表が、金額及び項目について日本側提案どおり作成され、提出をみたことをうれしく思います。

(通訳)

日本側は、技術委員会から提示された計画一覧表を、日本国政府の予想援助計画といたしたいと存じます。すなわち、日本側の具体的援助計画を最終的に確定するためには、交換公文2項(c)に予想されているとおり、なお国内的措置を要するのですが、日本国政府としては、その留保を付した上で、この計画一覧表に同意するものであります。

米側においても、同様の了解をもつて、この予想援助計画に同意されるか否かおたづねしたいと存じます。

(通訳)

(ライシ+ワー大使より、同意する旨発言)

権名大臣 これによつて、来会計年度日本政府の予想援助計画は合意されました。

(通訳)

4 (その他の発言)

権名大臣 では、ここで御発言の希望があれば、御発言願います。

(通訳)

(白井総務長官より発言)

(通訳)

権名大臣 米側委員からなにか御発言がごないますか。

(ライシ+ワー大使の紹介により、ワトソン弁務官発言予定)

5 (新聞発表に関する協議)

権名大臣 では、ここで恒例に従い、本日の協議の結果を新聞にどの程度発表すべきかについておはかりいたします。

双方の事務当局間で作成した一案をお手許に配布いたしてありますが、これに従つて、本日合意された日本側予想援助計画の総額、各部門の金額及び各部門別の金項目のみを新聞に発表することといたしたいと思いますが、御異議ありませんか？

(通訳)

御異議がなければ、そのように決定いた

します。

(通 訳)

本年3月に、日米間で交換された交換公文に基づき、協議委員会及び技術委員会が設立されて以来、両委員会の活動によつて、日本政府の対沖縄援助に関する両国間の協議が着わめて順調、かつ、緊密に進捗したことは、まことに喜ばしいことと存じます。

本日合意された来会計年度日本政府の予想援助計画は、両委員会の最初の具体的な成果であります。今後も両委員会がこれまでに示した日米協調の精神をもつて、有効な活動を続けて行くことを祈ります。

(通 訳)

なお、本日の協議が出席者各位の御協力で円滑に進んだことに対し、議長として謝意を表します。

これをもつて、第4回協議委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

(通 訳)

第四回日米協議委員会について

昭和三十九年十二月十四日

日本政府の沖縄に対する経済および技術援助に関する第四回日米協議委員会は十二月十四日午後五時から外務省で開かれた。会議は十二月三日から五日まで那覇市で開かれた第三回技術委員会の検討の結果、技術委員会の議長から提出された昭和四十會計年度における日本政府の沖縄援助計画一覧表について協議した。この計画一覧表は、米側から提案され日本が受諾した計画（プロジェクト）と日本側が追加を提案した計画からなっている。討議の結果、同一一覧表を来年度の日本政府の沖縄に対する予想援助計画とすることに合意し、午後五時 分終了した。会議の出席者は別表のとおりで、今回は特にワトソン高等弁務官およびマーチン高等弁務官政治顧問がオブザーバーとして出席

した。

なお、今回の日米協議委員会で合意された昭和四十會計年度における日本政府の沖縄援助の予想援助計画の内容は別表のとおりである。

第4回協議委員会出席者

昭和39.12.14

日本側

椎名悦三郎	外務大臣
白井 莊一	総理府総務長官
竹内 春海	外務省アメリカ局長
山野 幸吉	総理府特別地域連絡局長
中島 信之	外務省アメリカ局北米課長
薄 津芳	総理府特別地域連絡局第1課長
北条 賢夫	那覇日本政府南方連絡事務所次長

米 側

エドウィン・O・ライシャワー	駐日米国大使
アルバート・ワトソン	琉球列島米国民政府高等弁務官
ジェームス・V・マーティン	琉球列島米国民政府高等弁務官政治顧問(公使)
ローレンス・O・ヴァス	米国大使館公使
オーウェン・J・ザハーレン	米国大使館参事官
ウィリアム・H・ブランズ	米国大使館/等書記官

秘
封

日本政府の対沖縄援助に
関する第4回協議委員会
議事録

昭和39/2/6
アメリカ局北米課

日時 昭和39年/2月/4日午後5時
場所 大臣接見室

1. 権名大臣（議長）より、第4回協議委員会
の開会を宣し、ライシ+ワー大使の発言を求
めた。
2. ライシ+ワー大使は、まずワトソン高等弁
務官とマーティン公使を紹介した上、特に一
言付言しておきたいとして、沖縄援助に関す
る日米協力の問題が、いかに重要視されてい
るかは、ワトソン高等弁務官が本協議委員会
に出席した事実が、これを証明していると思
う、旨を述べた。
3. 権名大臣より、本日の協議委員会にワトソ
ン高等弁務官とマーティン公使がオブザーヴ
ャーとして出席したことに對し、歓迎の意を

表した上、議事日程を採択した。

ついて権名大臣より、本日の委員会は去る
/2月3日より5日まで開催された技術委員
会における検討の結果、同委員会議長より協
議委員会に提出された援助計画一覽表（別添
3）を討議することを目的とする旨を述べた。

4. ここでライシ+ワー大使は発言を求め、
/1月/7日第3回協議委員会において、日
本側から提示のあつた案を適当なものと同認
したので、現地における検討のため技術委員
会に送付しておいたところ、今般技術委員会議
長より、全体の金額及び項目は、日本側の提
案どおりで、細目に多少の技術的調整を加え
た援助計画案が一覽表として協議委員会に送
達されてきたが、米側においては、これに異
議ないところ、日本側の見解を承知したいと
述べた。
5. 権名大臣は、来年度の日本政府の対沖縄援
助計画一覽表が、金額及び項目において、日
本側提案どおりに作成され、提出されたこと

をよるこばしく思ふ。日本側としては、技術委員会より提出された援助計画一覧表を、日本政府の来年度の予想援助計画として採用することとした。ただ交換公文第2項(6)に予想されている国内的手続に関する留保を付して、これに同意するものである旨を述べ、米側も同様の了解をもつて、同一一覧表を日本の沖縄に対する予想援助計画とすることに同意するかを訊した。これに対しライシ+ワ-大使は、米側も交換公文第2項(6)の留保を付されることを了承した上、これに同意するものであると述べた。

6. 権名大臣より、以上によつて来会計年度日本政府の予想援助計画は合意された旨を述べた後、白井総務長官の発言を求めた。

7. 白井総務長官は、ワトソン高等弁務官及びマーティン公使に対する歓迎の辞を述べた上、このたび昭和40年度の日本政府の沖縄援助予想援助計画について、日米が完全な合意に

達したことをよるこぶ、協議委員会及び技術委員会が発足以来、順調に活動していることは印象的であり、この日米間の協調の精神が協議委員会においてのみならず、広く沖縄に関する諸問題について生かされることを期待する旨を述べた(別添ノ)。

8. ついでワトソン高等弁務官は、ライシ+ワ-大使の紹介により、要旨次のごとく発言した。

沖縄の経済開発及び住民の福祉及び安寧の増進に関連して、日米両国の密接な協力の好例を眼のあたりにみたことをよるこびとする。両国政府の確立された政策であるこの協力の精神が沖縄にあるわれわれ関係者にとつてもいかに重要であるかは贅言を要しない。本委員会におけると同様の協力の精神は、技術委員会の最近の活動にも現われている。私は、技術委員会が設立後日浅きにかかわらず、ビジネス・ライクな精神と抱負に満ちた態度で

業績を挙げていることに感銘をうけた。これらの努力の結果、本年度の援助計画がかくも迅速に成立したことは、数年前に比すれば大変な改善である。ここで私は、前回の協議委員会でもとり上げられた将来の長期計画に言及したい。長期計画の検討は、本来は協議委員会の任務であるが、技術委員会は現地琉球の実情に精通しているので、これについてもなにか貢献しうるのではないかと思う。私は、着任早々民政府に対し、琉球政府のために長期開発計画を作成するよう指示した。私は、4月25日の交換公文に表明されている両国の協力の目的達成のために努力を続けるつもりである。民政府、琉球政府を支持し、琉球住民が、日米の援助を秩序正しく吸収して、開発計画が琉球住民の利益のために効果的に実施されるよう努力することを約束する。

9 続いて椎名大臣より、新聞発表ぶりについて語り、双方の事務当局間で作成した援助案

の総額、各部門の金額及び項目を発表するとの案（別添2）によることを提案し、米側も異存ない旨述べた。

10 最後に椎名大臣より、協議委員会及び技術委員会が設置せられてより、沖縄援助に関する協議がまわめて順調に進捗していることはよるこばしい。本日成立した来年度の日本政府対沖縄援助予想援助計画は、両委員会の最初の具体的成果であり、今後両委員会が協調の精神をもつて活動して行くことを期待する旨を述べた上、閉会を宣した。

第4回協議委員会
議事日程(案)

昭和39/2/7

1. 技術委員会提出の昭和40会計年度日本政府
府対沖縄援助計画一覧表に対する日本側所見
表明
2. 米側所見表明
3. その他
4. 新聞発表に関する協議

AGENDA

Fourth Meeting of Consultative Committee
1700, December 14, 1964
Foreign Minister's Reception Room, Fourth Floor
Ministry of Foreign Affairs, Tokyo.

(Japanese press will photograph participants after they
have taken their places at Conference table and will
depart before start of meeting.)

1. Foreign Minister: Opening remarks
2. Ambassador:
 - a. Introduction of General Watson and Minister Martin.
(Preface introduction by relating HICOM's and POLAD's
attendance to importance we attach not only to U.S.-
Japan cooperation concerning Ryukyus but to aid program
and its implementation.)
3. Foreign Minister:
 - a. Adoption of Agenda
 - b. Reference to Consultative Committee's receipt of aid program
from Technical Committee.
4. Ambassador:
 - a. Remarks concerning GOJ counterproposal and Technical Committee's
action.
5. Foreign Minister:
 - a. Statement that Technical Committee's program represents GOJ
anticipated aid program JFY '65.
 - b. Ask if USG agrees.
6. Ambassador: Statement of USG agreement with program.
7. Director General: Expression of satisfaction.
8. Foreign Minister: Ask Ambassador if any further comment from U.S. side.
9. Ambassador:
 - a. Expression of satisfaction.
 - b. Ask General Watson if he wishes to comment.
 - c. General Watson's remarks.
10. Foreign Minister: Suggestions on statement to press.
11. Foreign Minister closes meeting.

Seating Arrangement

Japanese Side

- Mr. Nakashima
- Mr. Takeuchi
- Foreign Minister
- Director General
- Mr. Yamano
- Mr. Hojo
- Mr. Suzuki
-
-
-

U.S. Side

- Mr. Bruns
- Minister Vass
- General Watson
- Ambassador
- Minister Martin
- Mr. Zurhellen

秘 封

タイプ指示	発信用	執務用	計
主 信	/	/	2
付	/		
属	2	3	

発送日 昭和39年12月22日
 発信 田 タイプ 校者 10

文書課長 公 信 案 (分類)

公 信 番 号 米北 第 1411 号	公 信 日 付 昭和 39 年 12 月 21 日	起 案 昭 和 39 年 12 月 17 日
大 臣 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 参 事 官 主任 光米課長	起 案 者 上 林 電 話 番 号 444
受 信 者 在 米 武 内 大 使	発 信 者 椎 名 大 臣	
写 送 付 先 沖縄援助に因り 第4回協議委員会に付 件 昭和40年度日本政府の対沖縄援助予費後 算の日米間の合意成立) → 42 即答に付	(希望発送日)	

GA-2 21 101 外務省 回覧番号

米北 1411 号

昭和39年12月21日

在 米 大 使 殿

外 務 大 臣

沖縄援助に因り第4回協議委員会に付
 いて(昭和40年度日本政府の対沖縄援助予費後
 算の日米間の合意成立)
 1. 我が国の対沖縄援助に因り第4回協
 議委員会は12月14日午後5時より約30分
 間本省接見室において別添1の議事日程
 により行われた。本席者は別添2の通
 りであった。

GA-4

外務省

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

2. 今回の委員会においては、初回協議委員会においてゆが方より提示した援助計画案(11月20日付経信米北第1296号別添3号)を技術委員会において検討せよ、その結果技術委員会議長より協議委員会に提出せよとの援助計画一覽表(別添3)について討議せよ。

なお、技術委員会提出の一覽表は11月17日提示のゆが方案に技術的に調整を加えたものに基づき、総額、項目ともゆが方案と同一であった。

3. 協議の結果、来年度の日本政府の対沖縄援助予算援助計画は技術委員会より提出の一覽表通り56項目、金額は1228億6.563万円(米貨2960,085ト)と

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

とすことには日米双方の意見が一致した。
4. 協議委員会議事録は追送す

付属物空便

秘 封

タイプ指示	発信用	執務用	計
主 信	1	1	2
付	3/11 3/12		
属			

発送日 昭和39年12月26日
 発信 タイプ 検査

文書課長 (印) 公 信 案 (分類)

公 信 番 号 米北 第 1441 号	公 信 日 付 昭和 年 月 日	起 案 日 昭和 39 年 12 月 24 日
大 臣 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 米 事 官 主任 米 課 長	公 案 番 号 上 取 電 話 番 号
受 信 者 在 米 武 内 大 使	発 信 者 椎 名 大 臣	
写 送 付 先	(希 望 発 送 日) 12 月 25 日	
件 名 沖 繩 接 助 関 于 米 女 同 協 議 委 員 会 議 事 録 送 付 件		

GA-2 外務省 回覧番 25 358

米北 1441 号
 昭和39年12月25日

在 米 大 使 殿

外 務 大 臣

沖 繩 接 助 関 于 米 女 同 協 議 委 員 会 議 事 録 送 付

来年度の日本政社対沖繩接助案が
 米女同協議会におり合意をみた次予
 は12月21日付往信米北第1411号
 をもって通報したが、同委員会の議事録1部
 参考迄別添送付する。

付属物添付

GA-4 外務省

沖縄援助提案額の対前年度比較表

	昭和40年度	昭和39年度	比較増減
総 額	2,865,630 千円 (7,960)	1,874,880 千円 (5,208)	990,750 千円 (2,752)
1. 農業及び漁業	805,162 千円 (2,236)	537,480 千円 (1,493)	267,682 千円 (743)
2. 公共土木	887,700 千円 (2,466)	727,920 千円 (2,022)	159,780 千円 (444)
3. 社会福祉	520,135 千円 (1,445)	258,120 千円 (717)	262,015 千円 (728)
4. 教育と文化	400,401 千円 (1,112)	150,480 千円 (418)	249,921 千円 (694)
5. 技術援助	252,232 千円 (701)	200,880 千円 (558)	51,352 千円 (143)

沖縄援助提案額の対前年度比較表

	昭和40年度	昭和39年度	比較増減
総 額	2,865,630 千円 (7,960)	1,874,880 千円 (5,208)	990,750 千円 (2,752)
1. 農業及び漁業	805,162 千円 (2,236)	537,480 千円 (1,493)	267,682 千円 (743)
2. 公共土木	887,700 千円 (2,466)	727,920 千円 (2,022)	159,780 千円 (444)
3. 社会福祉	520,135 千円 (1,445)	258,120 千円 (717)	262,015 千円 (728)
4. 教育と文化	400,401 千円 (1,112)	150,480 千円 (418)	249,921 千円 (694)
5. 技術援助	252,232 千円 (701)	200,880 千円 (558)	51,352 千円 (143)

(別表)

総額 千円 千ドル
2,865,630 (7,960)

1. 農業及び漁業 千円 千ドル
805,162 (2,236)

農業研究調査, 農業普及, 模範農場, 種畜生産及び研究調査,
家畜改良増殖, 漁港施設, 漁礁施設, 農林漁業中央金庫出資金,
土地改良, 鮮魚運搬船, 模範水産増殖センター, 農山漁村電気
導入, 農業教育近代化施設

2. 公共事業 千円 千ドル
887,700 (2,466)

森林開発及び治山, 治水, 護岸, 道路橋梁, 埠頭及び港,
都市開発, 市営住宅, 航路標識, 気象台施設, 気象台消耗品,
土地調査

3. 社会福祉 千円 千ドル
520,135 (1,445)

戸籍簿保管箱, 医療施設, 医療備品及び消耗品, 結核患者等
入院治療, ハンセン氏病対策, 児童福祉施設, 社会福祉貸付金,
母子福祉貸付金, 消防施設, 無医地区診療所備品, 身体障害者
施設整備, 精神衛生事業, 生活保護事業

4. 教育と文化 千円 千ドル
400,401 (1,113)

公民館図書, 養護学校, 学校用備品, 幼稚園備品, 学用品無
償給与, 教科書無償給与, 学校図書館図書, 琉球大学図書館図
書, 奨学資金, 遺児育英資金, 全国体育大会参加, 青年の家

5. 技術援助 千円 千ドル
252,232 (701)

医師及び歯科医師派遣, 農業指導員派遣及び本土研修, 国費
奨学生計画, 教育文化研修, 教育指導, 技術援助, 先島(宮古
及び石垣) TV局設置調査

計 画 番 号	計 画 名	資 金	計 画
1	農 業 研 究 調 査	\$ 116600	(¥ 41976000)
2	農 業 普 及	20000	(7200000)
3	模 範 農 場	36500	(13140000)
4	種 畜 生 産 及 び 研 究 調 査	118000	(42480000)
5	家 畜 改 良 増 殖	139800	(50328000)
6	漁 港 施 設	146000	(52560000)
7	漁 礁 施 設	21667	(7800000)
8	農 林 漁 業 資 金	1160033	(417612000)
9	土 地 改 良	232000	(83520000)
10	森 林 開 発 及 び 治 山	203756	(73352000)
11	治 水	129500	(46620000)
12	護 岸	473600	(170496000)
13	道 路 橋 梁	369986	(133195000)
14	埠 頭 及 び 港	295000	(106200000)
15	都 市 開 発	142200	(51192000)
16	市 営 住 宅	125000	(45000000)
17	航 路 標 識	53500	(19260000)
18	気 象 台 施 設	208800	(75168000)
19	高 層 気 象 台 用 品	119792	(43125000)
20	戸 籍 簿 保 管 設 備	29800	(10728000)
21	土 地 調 査	344700	(124092000)
22	医 療 施 設	81039	(29174000)
23	医 療 機 器 及 び 医 薬 品	155900	(56124000)
24	結核その他患者の日本における収容治療	414913	(149360000)
25	日本からの医師、歯科医師	447192	(88980000)

計 画 番 号	計 画 名	資 金	計 画
26	ハンセン氏病治療医薬品	\$ 7,000	(¥ 25,200,000)
27	児童福祉施設	1,283,000	(4,618,800)
28	民間福祉施設に対する資金	3,000,000	(10,800,000)
29	母子家庭に対する福祉資金貸付	2,000,000	(7,200,000)
30	消防施設	453,000	(1,630,800)
31	公民館図書	422,000	(1,519,200)
32	農業教育近代化指導員の本土派遣	685.6	(2,468,000)
33	養護学校	85,028	(3,061,000)
34	学校備品	3,451,117	(12,424,200)
35	幼稚園備品	373.3	(1,344,000)
36	学用品無償給与	7,000,000	(25,200,000)
37	教科書無償給与	258,972	(932,800)
38	学校図書館の図書	823.9	(2,963,500)
39	琉球大学図書館の図書	200,000	(720,000)
40	育英奨学資金	1,237,000	(4,453,200)
41	遺児育英資金	1,000	(3,600,000)
42	国費奨学生計画	189,753	(683,110)
43	体育関係全国大会参加	555.6	(2,000,000)
44	日本における教育文化研修	469,444	(1,690,000)
45	教育指導	633.81	(2,281,700)
46	技術援助	138,847	(499,850)
47	鮮魚運搬船建造	106,689	(384,080)
48	模範水産増殖センター	371.00	(1,335,600)
49	無医地区診療所備品	日政 \$ 11,603	(41,730,000)
50	身体障害者施設整備	\$ 2,483.9	(8,942,000)

計 画 番 号	計 画 名 称	資 金	計 画
5.1	精 神 衛 生 事 業	\$ 2,257,920	(X 812,850.00)
5.2	生 活 保 障 事 業	\$ 2,703,330	(973,200.00)
5.3	農 山 漁 村 電 気 導 入	\$ 523,860	(188,580.00)
5.4	農 業 教 育 近 代 化 施 設	\$ 497,880	(179,240.00)
5.5	育 年 の 家 礎 設	\$ 746,000	(268,560.00)
5.6	先 島 T V 局 調 査	\$ 767,200	(276,200.00)
	総 合 計	\$ 7,960,850	(X 2,865,630.00)

SUGGESTED REMARKS BY GENERAL WATSON
(Agenda Item No.9C)

協賛
委員
会
牙
回

Mr. Minister, Mr. Director General:

I am pleased that Ambassador Reischauer invited me to participate with him in this meeting of the Consultative Committee. I am happy to have had the opportunity to see at first hand this example of close cooperation between the representatives of the United States and Japanese Governments with respect to the economic development of the Ryukyu Islands and the welfare and well-being of the inhabitants when was just referred to by Director General Usui. It is gratifying to me to know the extent to which this cooperation, so firmly established in the policies of the two governments, prevails in the actions of this Committee. I need not tell you how important this cooperation is to us in the Ryukyus — to the people of the islands, to their government and to the United States Civil Administration.

On our part, we are pleased that this same spirit of cooperation was reflected in the recent actions of the Technical Committee which, as you know, is composed of representatives of the Japanese Government, the Ryukyuan Government and my administration. I am favorably impressed by the smooth working of that Committee and the high competence of its members. This becomes especially impressive when one realizes that the Technical Committee has been in operation for a relatively short.

time and as alluded to earlier, we are far ahead this year in planning the aid program. I like its business-like attitude and forward looking spirit. This brings to my mind the references in previous meetings of the Consultative Committee to future long-range planning. It is my belief that the Technical Committee, since it is closely in touch with the situation in the Ryukyus, can perhaps play some role in this matter, although it is the primary responsibility of the Consultative Committee. As you may be aware, I have directed my staff under the direction of the Civil Administrator to establish a long-range development plan for the Government of the Ryukyus.

I assure you of my intention to continue to work for the attainment of the objectives reflected in the cooperative arrangements expressed by the Exchange of Notes last April and to enhance that cooperation in every feasible way. I assure you also that the U.S. Civil Administration will support the Government of the Ryukyus Islands in augmenting the ability of the Ryukyus to absorb fully both the United States' assistance and that of Japan in an orderly manner so that the overall aid program may be implemented effectively for the benefit of all the Ryukyuan people.

Thank you for this opportunity to meet with you in this meeting.